



飛島に移住して農業に取り組む（右から）遠藤元一さんと先輩の小川ひかりさん、松本友哉さん＝鶴岡市

飛島の「農業 若者が活力

公益大生遠藤さん、新たに移住へ

日本海に浮かぶ飛島（酒田市）に、来春からまた一人の若者が移住する。島で初めての專業農家として耕作放棄地を耕し、ゴダイモやソバ、天保ソバなどを育て、飛島ブランドの農作物を出荷する計画だ。

ブランド農作物出荷計画

飛島には昨年から今年にかけて3人が移住。Uターン組も含めて6人の若者が中心になり、食堂・観光案内所「しまかへ」の営業や資料館・映画館開設、観光客誘致イベントの運営などに取り組んでいる。

住した松本友哉さん(25)、小川ひかりさん(24)、神庭友人さん(24)らと今年の夏に共に働き、「これから企画し、資金を調達して、協力し合い、店や資料館を運営していく姿に共感した。テレビもない部屋に寝泊まりし、島の将来について語り合い、自分も仲間に加わって島で役に立てたら

と思ふようになつた」の話す。

かつて飛島の農地は45ヶ所
あつたが、島の人口減少と
高齢化のため、今は4ヶ所ほ
どに激減した。酒田市の白
崎好行農林水産部長は「飛
島で農業を始めたいという
若者が出てくるとは想像も
していなかつた。農地を徐々に拡大できるように支援できれば」と話す。

飛島の若者らでつくる「合同会社とびしま」は、島内で空き家となっていた「みはらし食堂」を改修し、農水産物加工施設として整備している。

県から500万円の補助金を受け、急速に凍結施設、乾燥機、製粉機、真空パック機などを導入。若者らが、島のおばあちゃんたちの指導を受け、アイデアを出し合って商品開発に取り組み、来年4月から本格稼働させる。製品は、島内の「カフェースペースしまかへ」で販売するほか、県のアンテナショップなどに置き、通信販売もする予定だ。

本間当代表社員(32)は「トビウオなどを冷凍して保存し、観光も漁業もひまになる冬に作業ができるれば、島の産業振興や若者定着につながる」と話している。

元食堂改修し農水産物加工場に

モや天保ソバなどを作つて
収益を上げられるようにし
たい」という。